

第2回将来の北極研究を考えるワークショップ プログラム

開催日:2018年8月9日(木)10:00~17:00

場所:一橋講堂中会議室1-2

2018年8月7日現在

要旨番号	開始	終了	氏名	所属機関	分野	発表タイトル
開会の挨拶・主旨説明	10:00	— 10:10	榎本浩之			
戦略目標① 気候変動要因の解明と予測モデルの不確実性の低減				座長:榎本浩之		
1	10:10	— 10:20	小池 真	東京大学	大気	北極気候変化に関わる大気物質・雲・放射研究
2	10:20	— 10:30	檜山哲哉	名古屋大学	陸域	北極海—大気—植生—凍土—河川システムの統合的理解による凍土保全策の共創
3	10:30	— 10:40	菊地 隆	海洋研究開発機構	海洋	北極海洋・海水環境の変化に関する研究・開発
4	10:40	— 10:50	青木輝夫(代理:東久美子)	岡山大学(国立極地研究所)	積雪	グリーンランド氷床—大気相互作用
5	10:50	— 11:00	羽角博康	東京大学	気候	気候モデリングの観点から
(質疑応答)	11:00	— 11:30				
ランチタイム	11:30	— 12:30				
戦略目標② 北極域の持続的な利用のための科学的知見に基づいた法的・政策的対応の提示				座長:河野 健		
1	12:30	— 12:40	柴田明穂(代理:西本健太郎)	神戸大学(東北大学)	国際法	ポストArCSの下での北極国際法政策研究の推進
2	12:40	— 12:50	大西富士夫・高橋美野梨	北海道大学	国際関係	複雑化する北極域政治の解明と政策研究への応用 科学的知見に基づいた政策的対応を目指して
3	12:50	— 13:00	成田大樹	東京大学	国際環境経済	北極域の持続的利用に関する経済分析
4	13:00	— 13:10	金野祥久	工学院大学	氷中航行	戦略目標2への工学分野からの貢献
5	13:10	— 13:20	西本健太郎	東北大学	国際法	今後実施すべき北極研究—国際法の観点から
(質疑応答)	13:20	— 13:50				
休憩	13:50	— 14:00				
戦略目標③ 北極の脆弱性の評価と環境変動が社会に与える潜在的危機の把握				座長:齊藤誠一		
1	14:00	— 14:10	山口 一	東京大学	北極海航路	北極航路の持続的利用可能性と社会・環境リスク
2	14:10	— 14:20	猪上 淳	国立極地研究所	北極気象・中緯度気象への影響	北極の湿潤化がもたらす局所的・遠隔的影響の実態把握と予測研究
3	14:20	— 14:30	内田雅己(代理:工藤栄)	国立極地研究所(国立極地研究所)	陸上生態	北極陸域生態系研究
4	14:30	— 14:40	高倉浩樹	東北大学	シベリア・陸上生態・凍土	「北極の脆弱性の評価と環境変動が社会に与える潜在的危機の把握」に対する人類学からのアプローチの可能性
5	14:40	— 14:50	杉山 慎	北海道大学	グリーンランド・海洋環境・凍土	グリーンランド沿岸の環境変動が人間生活に与えるインパクト—北極域の持続的な発展への貢献—
(質疑応答)	14:50	— 15:20				
休憩	15:20	— 15:30				
コメントプレゼン				座長:河野 健		
	15:30	— 15:40	村山英晶	東京大学	工学(海洋観測技術、災害予測など)	デファクトスタンダードを目指す北極研究観測機器開発
	15:40	— 15:50	森 太郎	北海道大学工学院	工学(保健、建築、ゴミに関する研究)	レジリエントな北極社会の実現
(簡単な質疑応答)						
	15:50	— 16:00	近藤 豊	国立極地研究所		北極気候研究の基本的な考え方
	16:00	— 16:10	榎本浩之	国立極地研究所		将来の北極研究構想案について
(簡単な質疑応答)						
全体討論	16:10	— 16:40	榎本・河野・齊藤			
まとめ	16:40	— 16:50	榎本浩之			
閉会						